

倉吉市内遺跡分布調査報告書12

平成14年度

倉吉市教育委員会

序

この報告書は、平成13年度及び14年度に、倉吉市内における開発事業に伴って事前に実施した試掘・確認調査の記録です。

鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、豊かな自然と風土の中で育まれた数多くの文化財が今日に伝えられており、なかでも埋蔵文化財は県内でも有数な包蔵地として周知されているところです。倉吉市教育委員会では、こうした埋蔵文化財を守り、開発事業との共存を図るため、各関係機関との協議を重ね、さらには地元の方々のご理解とご協力を得ながら、文化財保護行政を進めているところです。

今回実施した調査においても、遺跡の有無とその広がりや遺跡の性格を把握するという所期の目的を果たし、開発機関との調整を図りながら文化財の保存を講ずることができました。発掘調査の記録をここに報告し、埋蔵文化財行政の資料として、また調査研究の一資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

最後に、調査にご協力いただきました市民の方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表するものであります。

平成15年3月

倉吉市教育委員会
教育長 福光純一

例 言

- 1 本報告書は、平成13年度及び14年度に倉吉市教育委員会が、岡・県の補助を受けて実施した分布調査の記録である。
分布調査は、トレントによって遺跡の有無・範囲・性格を調査したものである。
- 2 調査体制は次のような組織・編成である。

調査主体 倉吉市教育委員会

事務局 倉吉市教育委員会文化課

八田洋太郎（教育長 14年3月まで）

福光 純・（教育長 14年6月から）

景山 敏（教育次長）

鶴田 康幸（文化課課長）

藤井 光（文化課課長補佐兼文化財係長 13年度）

佐々木英則（文化課課長補佐兼文化財係長 14年度）

藤井 敏子（文化財係主任）

森下 靖哉（文化財係主任）

横鈴智津子（文化財係主任）

加藤 誠司（文化財係主任）

岡本 智川（文化財係主事 13年度）

山崎 昌子（文化財係主事）

岡本 拓也（文化財係主事）

調査補助員 山根 真美・松田 恵子（13年度）

内務補助員 金田 利子（13年度）

内務整理 泉 美智子・世浪由美子・山本 鑑・前坂 美樹・湯浅 博・明里 千秋（13年度）

松鶴あつ子・竹炭 晓子（13・14年度）

波藤 美佳・大川 京子・大西 利恵・岡 美幸・田口小代子・戸田めぐみ

村垣みゆき・森木 忠子（14年度）

3 地形図は、平成11年修正測量の1：2,500国土基本図 倉吉市平面図を使用し、方位は国上座標第V座標系で示した。

4 発掘資料は倉吉市教育委員会で保管している。

目 次

1 山根地区（山根入堂谷遺跡）	1	10 下古川地区（西見堂遺跡）	13
2 大谷地区（向野遺跡）	2	11 新田地区	14
3 上神平畑ヶ地区（平畑ヶ遺跡）	3	12 大谷地区（向野遺跡）	15
4 上神クズマ地区（クズマ遺跡）	4	13 北野地区	16
5 駄経寺町2丁目地区（大御堂廃寺跡関連遺跡）	5	14 谷地区	17
6 大谷茶屋地区（イザ原遺跡）	7	15 上福田地区（雨堤遺跡）	18
7 国分寺地区（下前田遺跡）	9	16 上井地区（大平山遺跡群）	19
8 三明寺古墳石積復元修理	10	17 駄経寺町地区（中曾根遺跡）	22
9 国府地区（白市遺跡）・大谷地区	12	18 米田町地区（海又遺跡）	24

1 山根地区（山根入堂谷遺跡）

調査地点 倉吉市山根字入堂谷70-1・74・75-3・376・378-1・378-2・379・380・381・383・385

386-1・387-1

調査期間 平成13年4月23日～平成13年5月17日

調査契機 病院建設に伴う試掘・確認調査

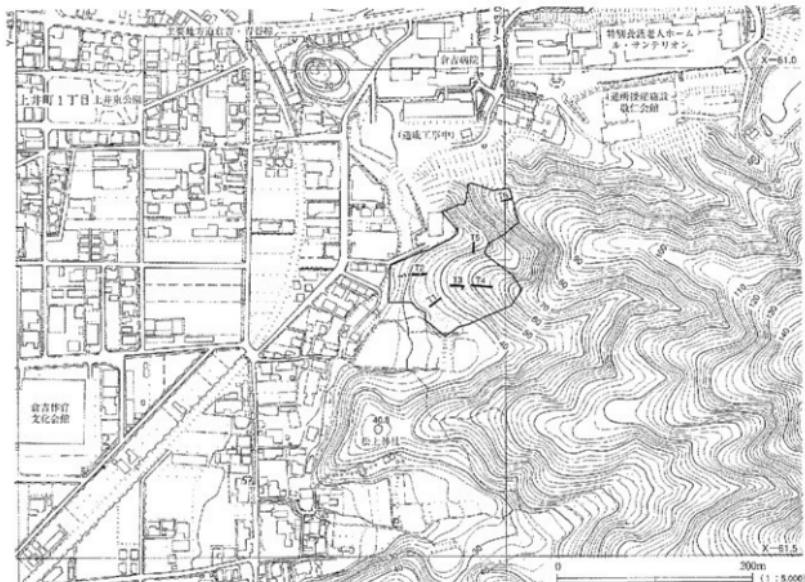
調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 204m²

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は事業予定地内に6本のトレンチを設定して実施した。いずれのトレンチも土師器・須恵器などの土器が出土した。トレンチ1では竪穴式住居（古墳時代）1棟、トレンチ3・トレンチ4では、古墳の周溝である可能性のある溝をそれぞれ1条確認した。このため遺構を確認した丘陵と周辺の斜面は事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×15	30	竪穴式住居1	土師器、須恵器
2	2×24	48		土師器、須恵器
3	2×18	36	溝1	土師器、須恵器
4	2×23	46	溝1	土師器、須恵器
5	2×10	20		弥生土器、土師器
6	2×12	24		弥生土器



2 大谷地区（向野遺跡）

調査地点 倉吉市大谷字向野166-1（鳥取県立倉吉農業高等学校地内）

調査期間 平成13年4月24日～平成13年5月18日

調査契機 鳥取県立倉吉農業高等学校環境実習棟整備事業に伴う試掘・確認調査

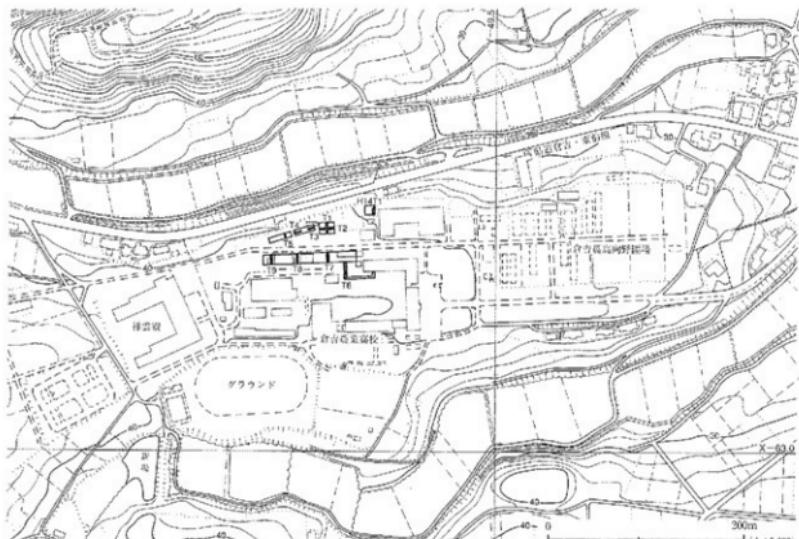
調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 190m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は事業予定地内に9本のトレンチを設定して実施した。丘陵頂部の環境実習棟予定地（トレンチ6～9）はすでに造構面が削られており、造構・遺物とも存在しない。丘陵北斜面の農機収納室、生徒作業準備室予定地は厚さ0.8～1.5mの客土があり、その下部に遺物包含層が遺存し、小ピットが存在する。このため丘陵北側斜面には遺跡が存在し、掘削が客土以下に及ぶ場合には、事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo.	規格(m)	面積(m ²)	検出 遺 様	出 土 遺 物
1	2×12	24	ピット	土師器
2	2×16	32	ピット	土師器
3	2×6	12		土師器
4	2×4	8		
5	2×5	10	ピット	土師器
6	2×18	36		土師器
7	2×11	22		
8	2×12	24		
9	2×11	22		



3 上神平畠ヶ地区（平畠ヶ遺跡）

調査地点 倉吉市上神字平畠ヶ587

調査期間 平成13年6月11日～平成13年6月12日

調査契機 NTTドコモ上神基地局基礎設備工事に係る試掘・確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 32m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は四王寺山から北西へ派生した丘陵の頂部にある開発予定地に、トレンチを2本T字状に設定して実施した。トレンチ1で幅約3m・深さ1.2m、断面U字形の古墳周溝と考えられる溝が存在する。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ番号	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×11	22	周溝	土師器、埴輪器
2	2×5	10		土師器



4 上神クズマ地区（クズマ遺跡）

調査地点 倉吉市上神字クズマ1125・1128

調査期間 平成13年8月1日～平成13年8月20日

調査契機 個人の畠地造成事業に係る試掘・確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 90m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査地は蜘蛛ヶ家山から南に派生する丘陵先端部の小さな谷部分にあたる。谷中央部に3本のトレンチを設定して実施した。各トレンチは非常に多くの遺物を包含し、数mの広がりをもつ遺物集中箇所が点在する。遺物は古墳時代後期の上師器を中心として、土馬、竈、土製支脚といった祭祀に使用した可能性がある土製品が出土した。また、トレンチ1で地下式横穴1基を確認した。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×16	32	地下式横穴1、遺物集中部分1	土師器、須恵器、土馬、手握土器、竈、土製支脚
2	2×15	30	遺物集中部分1	上師器、須恵器、手握土器、竈、土製支脚
3	2×14	28	遺物集中部分2	土師器、須恵器、手握土器、竈、土製支脚



5 駄経寺町2丁目地区（大御堂廃寺跡関連遺跡）

調査地点 倉吉市駄経寺町2丁目3-10

調査期間 平成13年9月7日～平成13年10月10日

調査契機 市道東巖城町駄経寺町線道路改良工事に伴う試掘・確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 58m²

調査担当 横鈴智津子

調査概要 開発予定地に幅2mの4本のトレンチを設定して行った。いずれのトレンチも瓦・土器が出土し、トレンチ3では史跡大御堂廃寺跡に間連する大型の掘立柱建物の柱穴を確認した。開発範囲内でトレンチ3を拡張して柱穴の検出を図ったが検出されなかった。柱穴は3個あり、うちP3は出土遺物から古墳時代前期と推定される。他の2個は切り合ひ、直径1.1mの柱穴P2の北側を、直径0.9mの柱穴P1が切る。P1の柱周りには瓦片が詰められていた。瓦片に混じって陶製瓦当範が出土した。瓦製作にあたった工房跡の存在が推測される。

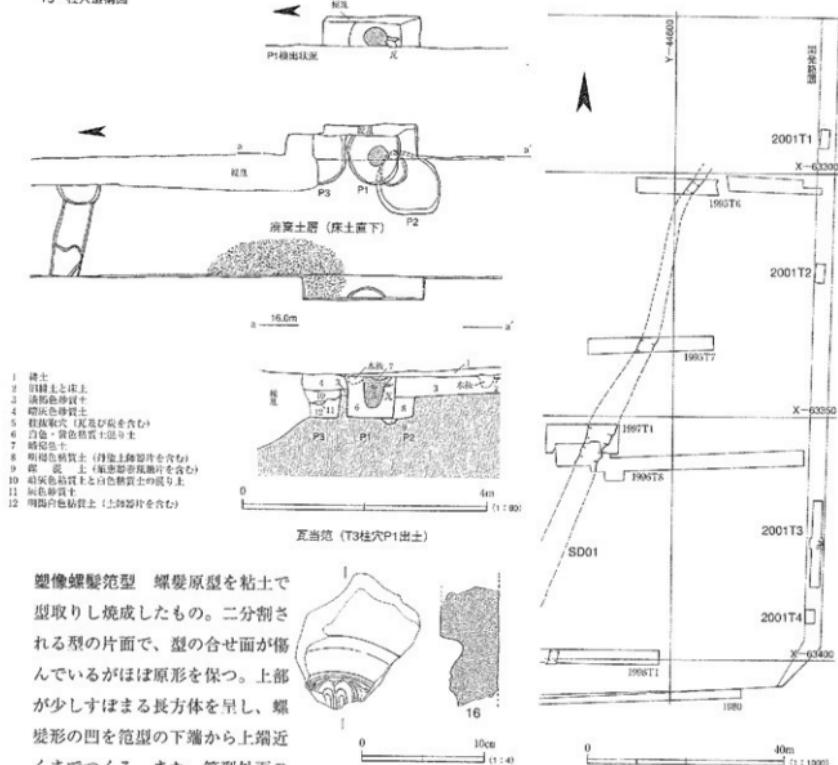
柱穴西側周辺には炭を多く含んだ廃棄土層があり、そこから出土した土器は伯耆国序第2段階の9世紀後半に比定される。

掘削が表土下0.8m以下の深さに及ぶ場合には、事前の発掘調査が必要である。

瓦当範 瓦当面の蓮弁と外縁の一部が残る。長径11.2cm、短径7.2cm、外縁部厚4.8cm。瓦当面の特徴から、大御堂廃寺跡軒丸瓦XV類の瓦当範と判断される。瓦当範は、粘土を大御堂廃寺跡軒丸瓦Ⅲ類の瓦当面に押し当て、成形後に焼成したもの。共伴する土器から9世紀代に位置付けられ、差替瓦の製作と思われる。（眞田）



T3 柱穴遺構図



塑像螺髪范型 螺髪原形を粘土で型取りし焼成したもの。二分割される型の片面で、型の合せ面が傷んでいるがほぼ原形を保つ。上部が少しすぼまる長方体を呈し、螺髪形の凹を範型の下端から上端近くまでつくる。また、範型外面の側面左右角に2箇所ずつ4箇所、面取り状の0.7cm~1.0cmの凹が施されている。範型の左右、上下端部、背面ともへラ切後にナデによって調整される。長さ5.1cm、下端幅3.8cm、上端幅3.3cm、厚さ2.1cm前後の大ささ。淡褐色を呈し、胎土は砂粒を多く含むが焼成は良好である。この範型から作られる螺髪は、左巻きで7回螺旋状に巻くもので、亀田修一氏が分類される円錐形A類に復元される。復元される螺髪の大きさは、高さ4.2cm、底径2.8cmである。平成11年度に実施した大御堂廃寺跡第4次調査で、滝棚調査区の包含層から出土した。(筑田)

参考文献 亀田修一・亀田素穂「塑像螺髪に関する観点」『創立善教先生古稀記念考古学論集』1998

6 大谷茶屋地区（イザ原遺跡）

- 調査地点 倉吉市大谷茶屋字イザ原883-66・883-67・883-85
 調査期間 平成13年10月9日～平成13年11月5日
 調査契機 A地区 砂丘地特産作物新品種育成ハウス建設のための造成工事（鳥取県園芸試験場生物工学研究室）に伴う試掘・確認調査
 B地区 個人の農地造成に伴う試掘・確認調査
 調査方法 トレンチによる発掘調査
 調査面積 A地区 90m²、B地区 253m²
 調査担当 森下哲哉
 調査概要 調査地は四王寺山東側の裾野に延びる丘陵斜面に所在し、A地区は南斜面でB地区は北斜面である。A地区に2本、B地区に3本のトレンチを設定して行った。
 A地区 どちらのトレンチも2m以上の掘削や容土が行われており、全体に旧状を留めな

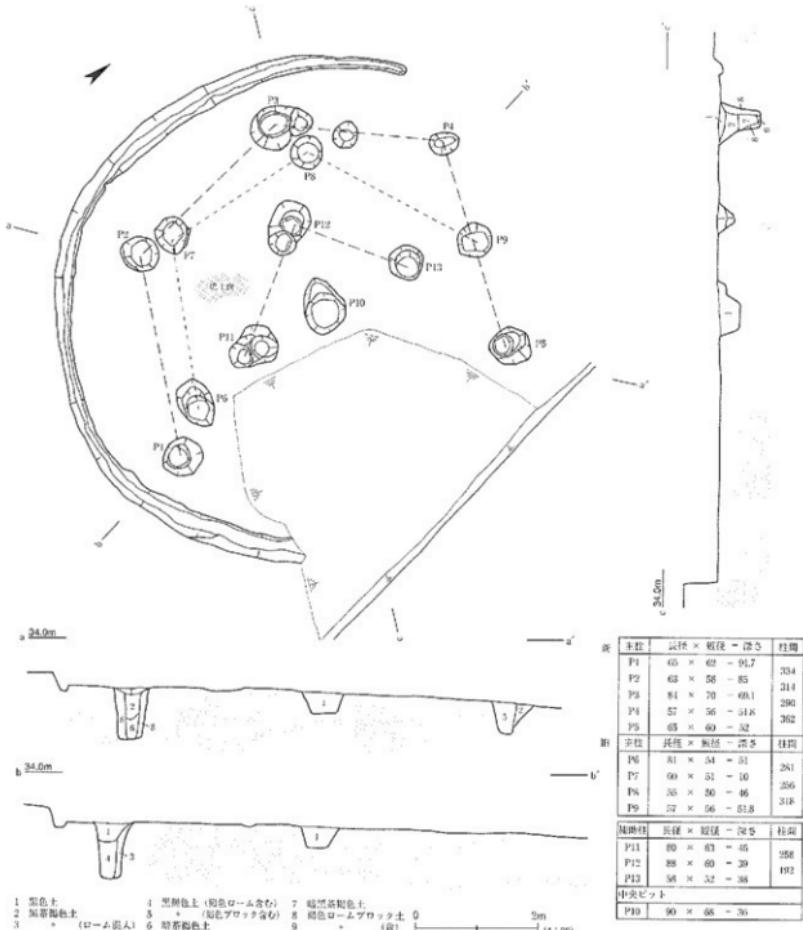
A地区	トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
	1	2×23	46		土師器、須恵器
	2	2×22	44		土師器、須恵器

B地区	トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
	1	2×28	56		土師器
	2	2×30			
	2	5×11	55	竪穴式住居1	弥生土器
	3	2×30	60		



いため、遺跡の存在は確認できなかった。

B地区 トレンチ2で弥生時代後期の竪穴式住居を1棟確認した。主柱穴より2時期の建て替えが考えられる。平面プランはわずかに角ばる円形と推定できる。住居址東側が大きく削平されるものの、床面規模が南北長約8m・東西長約7.8m、床面積約50m²を測る大型の住居址であった。検出面から床面までの深さは最大で0.3mであり、全体に遺存状況は悪い。主柱穴は5本から6本へと建て替えられ、中央に4本の補助柱穴を伴う。削平部分の主柱穴は未確認である。床面中央部に不整形な中央ピット、中央ピットの南西に焼上面を有する。遺物は、床面からの出土ではなく埋土中より若干の弥生時代後期の甕・高坏が出土した。



7 国分寺地区（下前田遺跡）

調査地点 倉吉市国分寺字下前田78・79・80-1・94-2・97-3・97-4・97-5、雑シ番297-3・300・300-1・300-4

調査期間 平成13年6月18日～平成13年7月5日

平成13年11月5日～平成13年11月9日

調査契機 市道社小学校線改良工事に伴う試掘・確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

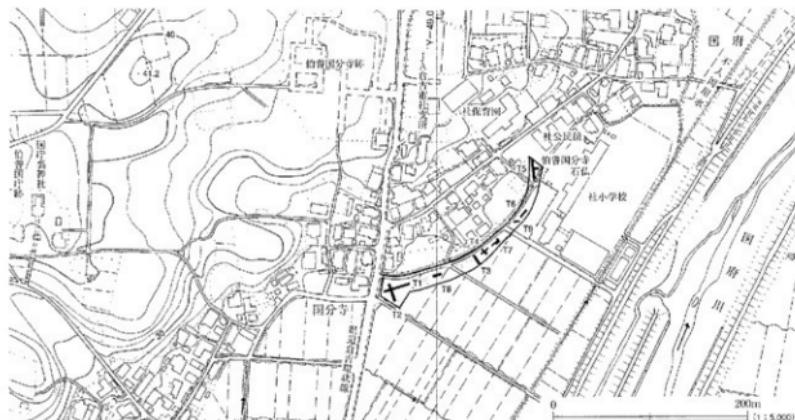
調査面積 289m²

調査担当 森下哲哉・岡平拓也

調査概要 調査地は国分寺集落南側の水田部分で、史跡伯耆国分寺跡などの立地する丘陵の縁辺部にあたる。基本的層序は上から耕作土、黒褐色土（近代遺物を含む）、灰黑色粘質土（主に中世遺物を含む）、ホーキ土及び白色粘質土（地山）である。地山である白色粘質土上面で、溝を3条検出した。また、トレンチ4では遺物が多量に出土した。

トレンチ3よりも西のトレンチでは若干の遺物は出土するものの遺構は存在しなかった。このため、トレンチ3から北東側で工事が行われる場合には事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×28	56		土師器、須恵器、瓦
2	2×20	40		土師器、須恵器、瓦
3	2×18	36		土師器、須恵器、瓦
4	2×9	34		土師器、須恵器、軒平瓦、瓦、塊
4拡張	2×8			
5	2×20	52	溝1	土師器、須恵器、軒平瓦、瓦
5拡張	2×6			
6	2×10	20	溝1	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦
7	2×10 2×4	28	溝1	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、軒丸瓦、瓦
8	2×10	20		弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦
9	2×7	14		土師器、須恵器、陶磁器、瓦



8 三明寺古墳石積復元修理

所在 地 倉吉市城字寺山1535-5番地

古墳概要 山名寺の背後の向山丘陵中腹に立地する直径約18m・高さ約6mの円墳。主体部は南に開口する切石造横穴式石室で、石室遺存長8.3m・玄室の長さ3.7m・幅3.2m・高さ3.1mで、当地最大の規模をもつ。玄室奥には遺骸を安置した石屋形状の石組みがあり、九州北・中部の影響が認められる。石室の構造から7世紀初に北定され、小鴨川を挟んで対岸にある大御堂庵寺の建立氏族との関連が推定されている。昭和6年11月26日国史跡指定。(名越勉「原始・古代」「倉吉市史」1973)

修復期間 平成13年12月3日～平成14年2月28日 調査担当 根鈴智津子

修復前状況 漢道部の上の木が石材の隙間に入り込み石室を支えていたが、平成2年枯死と台風のため木が傾き、さらに平成12年10月鳥取西部地震により天井部石材(Noア)が崩落した。

修復概要 ①修理前調査 石積の崩壊部分の現状を把握し、石材設置高を測定。②枯木・枯根除去。

③墳丘盛土除去 石材修復に係る部分の盛土のみ除去。元位置を保つ石材は記録に残して取り上げ。

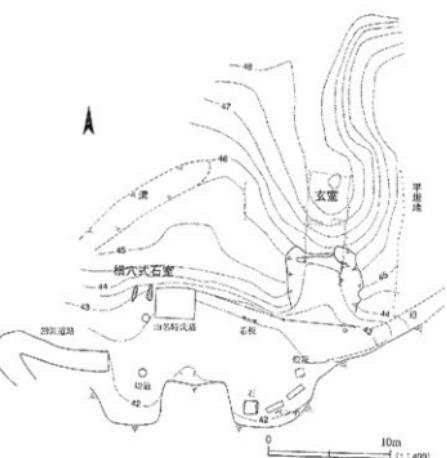
④石材接合 接合をする石を側壁石Noア(接着面1面)と崩落石Noオ(接着面4面)とする。損壊の原因是、Noアは元々下部に石材がなく、長らく露出していたため目地土が流出して損壊し、木根が入り込んで移動したもの。Noオは天井部一部として荷重がかかり折れたもの。接合部は力学的に耐久性を欠く構造。折れの進行は、露出部分の雨水の進行と凍結による劣化と推測される。Noアは現位置で接合できたが、Noオは複雑に剥離しており、墳丘から降ろして接着剤硬化の固定装置を作成した。

⑤石材保存処理 造形修復-クラック修復-着色-撥水剤塗布。

⑥石積直し 接合した石を元位置に設置。

⑦石材補充 失われた石材の一部を補充する。補充した石材が判別できるよう印を付して据付け、記録。

⑧軽量盛土 石材落下を防ぐ安全対策のため、接合した石の上部荷重軽減が必要であり、盛土を発



三明寺古墳墳丘測量図

泡スチロールに換え、Naオの下部にテンレス棒2本で補強した。

⑨埋め戻し・整形 修復部分に土を被せて補強し、周囲と違和感の無いよう盛土整形を行った。

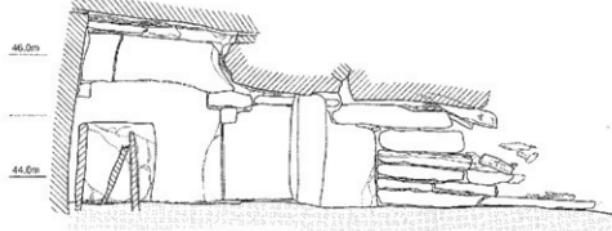
⑩修復後調査 石材設置高の測定結果と確認。

⑪植物植付 周辺部の景観を損なわないように配慮し、墳丘の流土を防ぐため自生植物を植付ける。

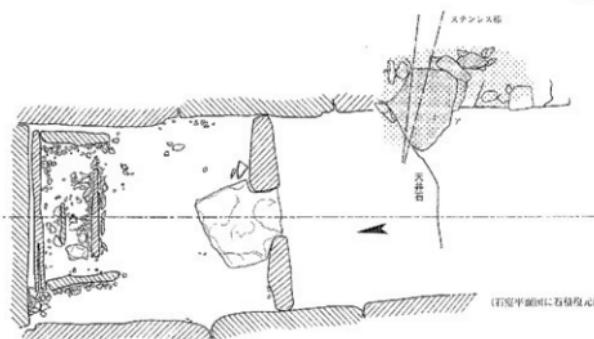
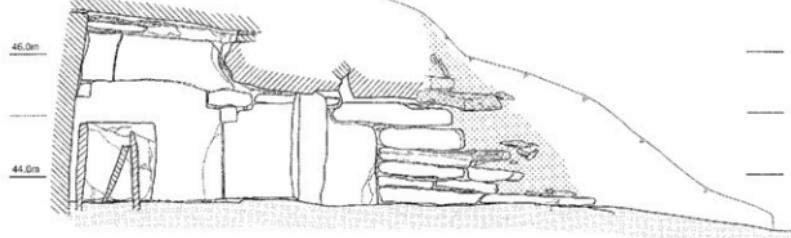
⑫古墳及び石室測量。

以上の工程で、石材破損部分を修復し、石室構造を保持して石材崩落を防ぎ、災害前の旧状に復元した。

修復前



修復後



三明寺古墳石室

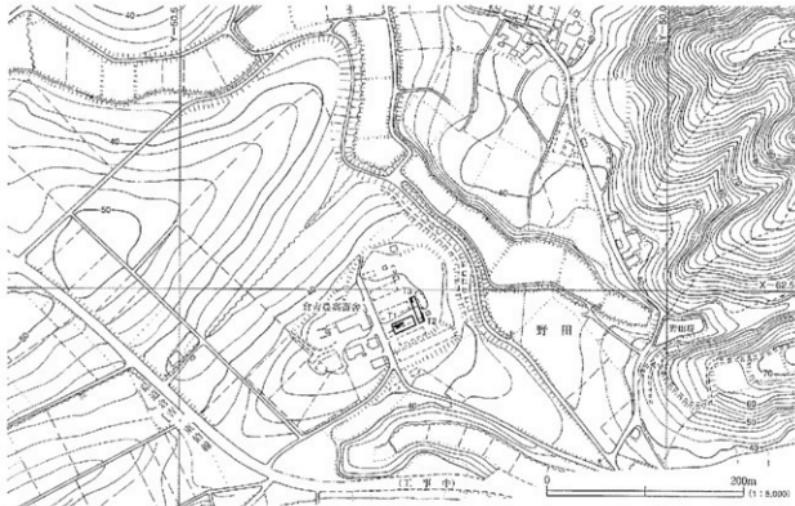


9 国府地区(白市遺跡)・大谷地区

- 調査地点 国府地区 倉吉市国府字白市1162-2
 大谷地区 倉吉市大谷字向野196-7(地図はP 2の大谷地区を参照)
- 調査期間 国府地区 平成14年5月14日～平成14年5月22日
 大谷地区 平成14年5月22日～平成14年5月23日
- 調査契機 国府地区 烏取県立倉吉農業高等学校哺乳類舎・小家畜舎新築工事に伴う試掘・確認調査
 大谷地区 粕乾燥室新築工事に伴う試掘・確認調査
- 調査方法 トレンチによる発掘調査
- 調査面積 国府地区 58.2m²、大谷地区 18.2m²
- 調査担当 土木技術課
- 調査概要 国府地区は、県立倉吉農高嵐ヶ丘牧場の所在する丘陵上及び南東斜面である。開発範囲内に3本のトレンチを設定し調査した結果、遺構は存在しないものの、客土(厚さ20cm)の下から比較的まとまった量の土器が出土した。このため、掘削が20cmを超える場合には事前に発掘調査が必要である。
- 大谷地区は、県立倉吉農高校舎の所在する丘陵の北端である。建物建設予定地に1本のトレンチを設定して調査した結果、予定地部分には遺構は存在しなかった。

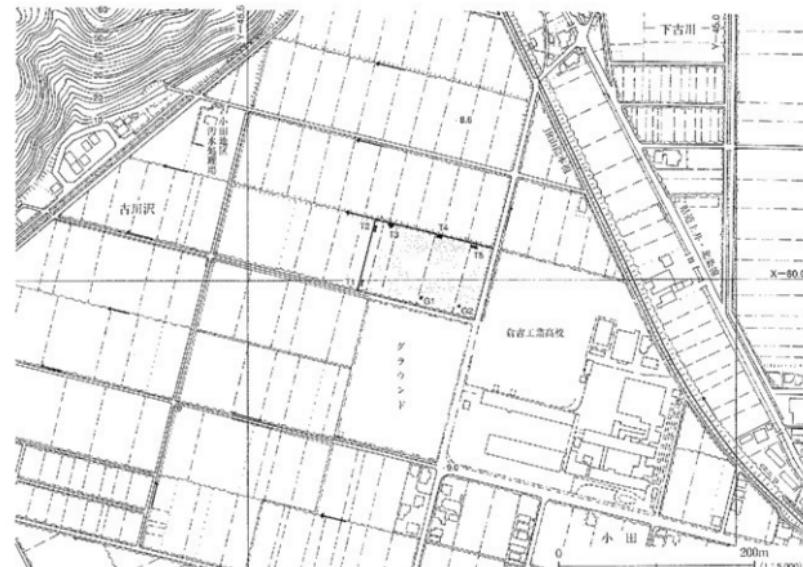
国府地区	トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
	1	2×10 1.7×4.5	27.7		
	2	2×10	19.5		墓生土器
	3	2×5.5	11		

大谷地区	トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
	1	2×10	18.2		土器



- 10 下古川地区（西見堂遺跡）
- 調査地点 倉吉市下古川字西見堂276~283
- 調査期間 平成14年5月21日~平成14年6月7日
- 調査契機 倉吉総合産業高等学校グラウンド造成工事（現倉吉工業高等学校）に伴う試掘・確認調査
- 調査方法 トレンチ・グリッドによる発掘調査
- 調査面積 81.9m²
- 調査担当 加藤誠司
- 調査概要 調査は、開発予定地内に5本のトレンチと2箇所のグリッドを設定して行った。その結果、トレンチ3の表土下約0.8mで土壌2基、溝と考えられる落ち込み1条を確認した。またトレンチ4の表土下約0.5mで南北方向に延びる溝1条を確認した。いずれも出土物から弥生時代後期から古墳時代のものと推定される。開発予定地の南側に設定したグリッド1・2では表土下0.8~0.9m付近で弥生土器や炭化物、磨石等が出土し開発区域全体に弥生時代後期から古墳時代の遺跡が広がるものと考えられる。このため掘削が表土下0.4m以下に及ぶ場合には事前に発掘調査が必要である。

トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2.4×5	12		弥生土器、土師器
2	2×5	10		弥生土器、土師器、陶埴器
3	2×5 1.2×1.6	11.9	土壌2、溝1	弥生土器、土師器、須恵器、陶埴器
4	3×5	15	溝1	弥生土器、土師器、須恵器、陶埴器
5	3×5	15		弥生土器、土師器
G1	3×3	9		弥生土器、土師器、須恵器、陶埴器、炭化物、磨石
G2	3×3	9		弥生土器、土師器



11 新田地区

- 調査地点 倉吉市新田字荒神木305-5
 調査期間 平成14年6月27日～平成14年7月3日
 調査契機 個人のアパート新築工事に伴う試掘・確認調査
 調査方法 トレンチによる発掘調査
 調査面積 20m²
 調査担当 囲平拓也
 調査概要 調査は、開発予定地内に2本のトレンチを設定して行った。その結果、開発予定地は天神川左岸の微高地に位置するが、いずれも天神川の洪水堆積土である。若干の遺物は出土するが遺構は検出されなかった。

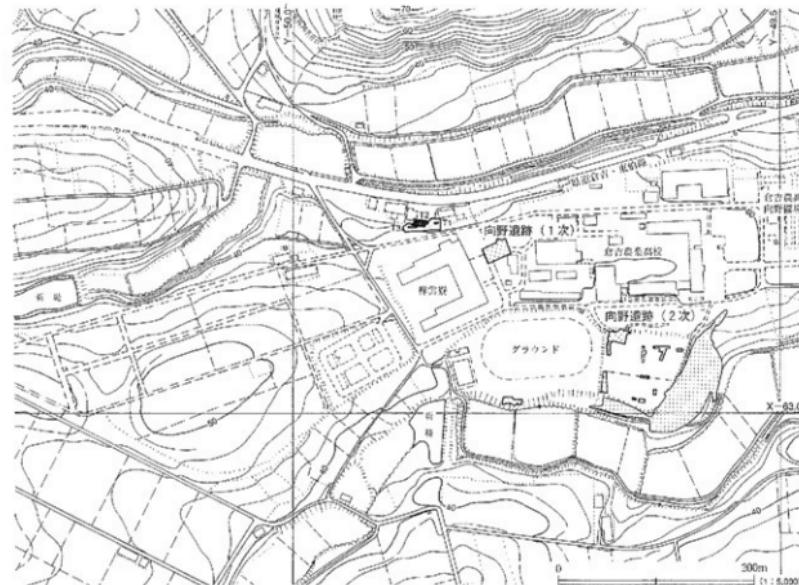
トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×5	10		土師器、陶磁器
2	2×5	10		土師器、陶磁器



12 大谷地区（向野遺跡）

調査地点 倉吉市大谷字向野196
 調査期間 平成14年9月13日～平成14年11月1日
 調査契機 個人の宅地造成に伴う試掘・確認調査
 調査方法 トレンチによる発掘調査
 調査面積 124m²
 調査担当 岡平拓也
 調査概要 調査地は鳥取県立倉吉農業高等学校が所在する丘陵の北側斜面に位置し、開発予定地内に3本のトレンチを設定して行った。その結果、道路状遺構5条、落し穴1基、溝1条を検出した。このうち道路状遺構は奈良・平安時代以降のもので、平成9年度実施の向野遺跡発掘調査（1次）でも確認されており、位置的に関連するものと推定できる。また周辺に所在する史跡伯耆国府跡や四王寺跡などの重要遺跡との関連も考えられる貴重な遺跡である。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×5	10	道路状遺構1	
2	2×6	12	道路状遺構4、落し穴1	土師器、頬忠器
3	2×9	18	溝状遺構1	



13 北野地区

調査地点 倉吉市北野字欠上^{けうじょう}1307-7

調査期間 平成14年11月13日～平成14年11月15日

調査契機 市道北野8号線道路改良工事に伴う試掘・確認調査

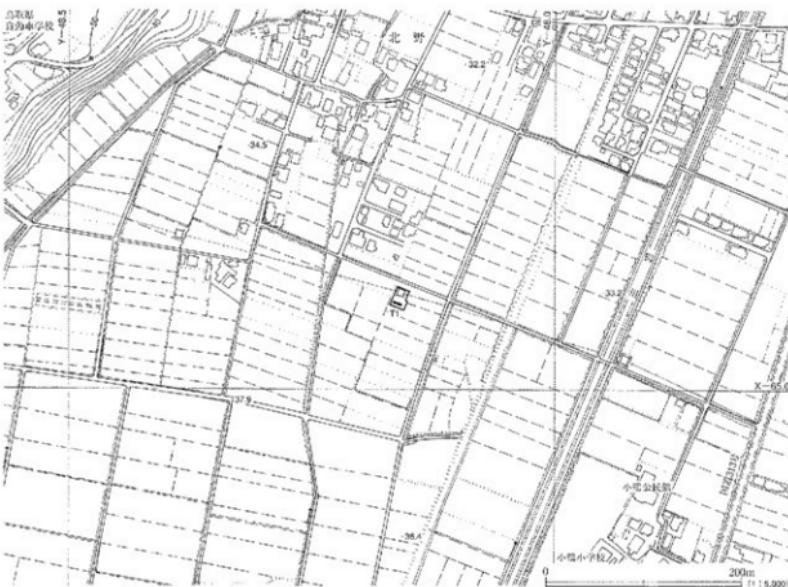
調査方法 レンチによる発掘調査

調査面積 24m²

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は、開発予定地中央に1本のレンチを設定して実施した。調査の結果、遺構はなく、遺物も耕作土等の搅乱層からの出土であった。下層になるにつれて砂質土や砾層が確認できた。

トレンチ番	規模(m)	面積(m ²)	出土遺構	出土遺物
1	2.4×10	24		土師器、須恵器、土師質土器、樹木灰



14 谷地区

調査地点 倉吉市谷字志折道631・632・633
調査期間 平成14年12月2日～平成14年12月9日
調査契機 農産基盤再編総合整備事業に伴う試掘・確認調査
調査方法 トレンチによる発掘調査
調査面積 277m²
調査担当 加藤誠司
調査概要 調査は、開発予定地内に7本のトレンチを設定して実施した。南東から北西に延びる丘陵の尾根筋とその周辺に広がる斜面であった。調査の結果、トレンチ3を除き耕作土の下部はすぐに地山となり遺構・遺物は確認できなかった。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×25	50		
2	2×24.9	49.8		
3	2×21.8	49.6		
4	2×14.9	29.8		
5	2×19.9	39.8		
6	2×14	28		
7	2×15	30		



15 上福田地区（雨堤遺跡）

調査地点 倉吉市上福田字雨堤 869-1・869-6・869-48・869-49

調査期間 平成14年12月17日～平成14年12月24日

調査契機 一般県道上大立大栄線改良工事に伴う試掘・確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 120m²

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は、開発予定地内に5本のトレンチを設定して実施した。トレンチの土層は、基本的に黒褐色土・褐色土・黄灰色砂質土からなる。調査の結果、丘陵頂部に設定したトレンチ4及びトレンチ5で貯蔵穴1基と溝1条を検出した。出土遺物はトレンチ4で弥生土器が出土する。この結果、丘陵尾根には弥生時代の集落の存在する可能性が高い。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×20.5	41		弥生土器、須恵器
2	2×14	28		
3	2×13	26		
4	1.5×13	19.5	貯蔵穴1 溝1	弥生土器
5	1.5×8.3	12.5		

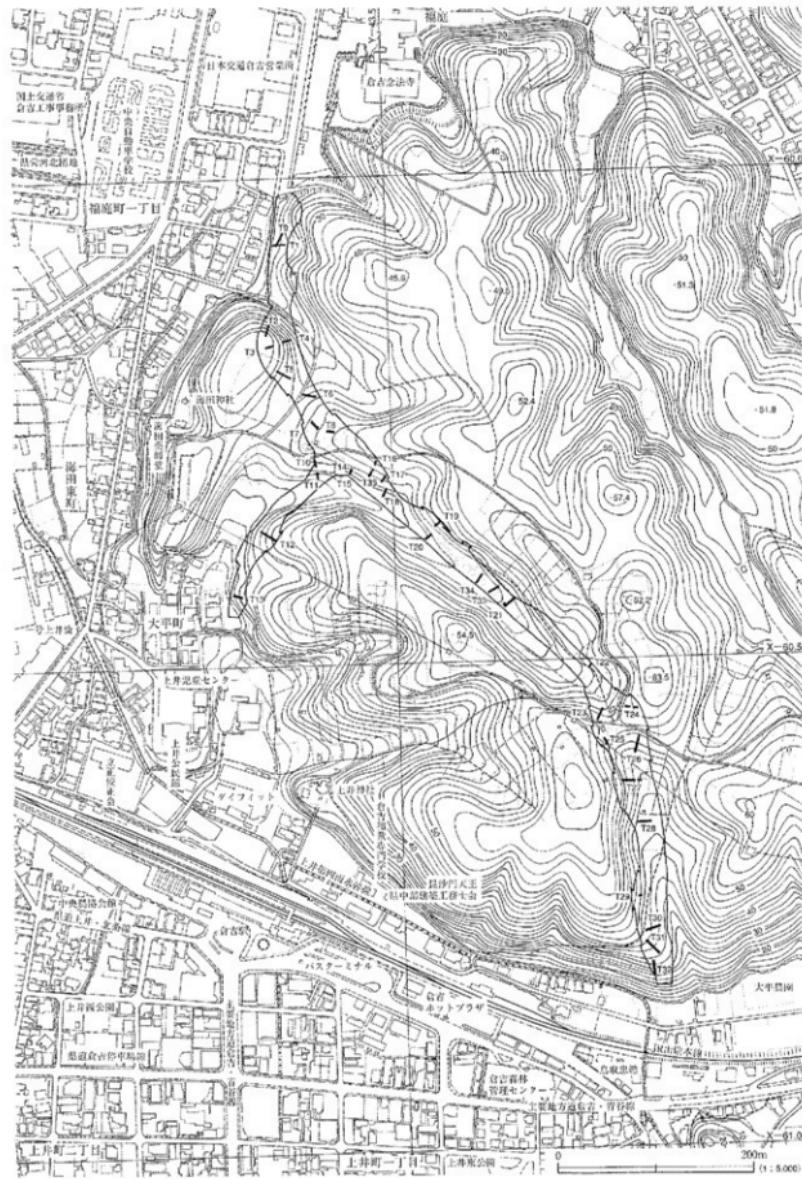


16 上井地区

(大平山遺跡群	坂根平遺跡・長谷平遺跡・若宮谷遺跡・山田平遺跡・宮ノ峰遺跡)
調査地点	倉吉市海田東町字坂根平・長谷平・若宮谷、上井字山田平・宮ノ峰
調査期間	平成13年12月11日～平成14年1月11日（平成13年度） 平成14年6月3日～平成14年6月14日（平成14年度） 平成14年11月11日～平成15年1月20日（平成14年度）
調査契機	都市計画道路 八屋福庭線・駅北通り線建設工事に伴う試掘・確認調査
調査方法	トレンチによる発掘調査
調査担当	加藤誠司・岡平拓也
調査面積	784m ²
調査概要	調査は、平成13年度に8本、14年度に27本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、6箇所で遺跡の存在を確認またはその可能性があることが判明した。 ① 坂根平地区 トレンチ1・9周辺。現集落に向かって西に開口する小さな谷部。縄文時代晩期の土器を多量に包含する土層があり、平成13年度ではトレンチ1より炭化物を含む土壌1基が確認される。縄文土器は大型の破片があり、周辺に遺構の存在が考えられる。 ② 長谷平地区 トレンチ7～17付近。大平山から西に派生する丘陵尾根及びその斜面部分。尾根筋には古墳や溝が、斜面には溝や道路状遺構が確認された。 ③ 若宮谷地区 トレンチ21周辺。北東から南西に延びる谷筋に弥生時代もしくは古墳時代のものと考えられる土壌1基、縄文時代の落し穴1基が確認された。 ④ 山田平地区 トレンチ24周辺。南北に延びる尾根の南端部分。丘陵上に古墳が存在する可能性がある。 ⑤ 山田平地区 トレンチ26周辺。南側斜面に弥生時代の住居址1棟を確認した。周辺には集落が存在するものと考えられる。 ⑥ 宮ノ峰地区 トレンチ29～31周辺。上井に向かって延びる尾根の南端。斜面に段状遺構を、尾根上には古墳2基を確認した。周辺の状況から丘陵先端部にはもう1基古墳が存在する可能性がある。

このため遺跡を確認した6箇所については、事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×13	26	土壙1	縄文土器、土師器、須恵器、磨石
2	2×15	30		土師器
3	2×8	16		
4	2×9	18		
5	2×18	36		
6	2×15	30		弥生土器
7	2×13	26		縄文土器
8	2×8	16	溝1	
9	2×16	32		縄文土器、須恵器、石器
10	2×7	14		須恵器
11	2×7	14	溝1	
12	2×13	26		
13	2×11	22		弥生土器
14	1×2.5	2.5		
15	2×6.5	13		
16	2×5.5	11		
17	2×8	16	道路状遺構1	土師器
18	2×9.5	19		土師器
19	1.5×9	13.5		
20	2×9	18		土師器
21	2×14 2×2	32	落し穴1、土壙1	縄文土器、弥生土器、土師器
22	2×4	8		鉄釘
23	2×13.5	27		
24	2×5 2×5.5	21		
25	2×9	18		
26	2×18	36	竪穴式住居1	弥生土器、土師器、石器
27	2×15	30		
	2×4.5	9		
28	2×15.5	31		土師器、須恵器
29	2×3.5	7	段状遺構1	
30	2×15.5	31	古墳1	土師器
31	2×20	40	古墳1	弥生土器、土師器
32	2×14.5	29		
33	2×9	18	道路状遺構1	
34	2×12	24		弥生土器、土師器
35	2×12	24		弥生土器、土師器



17 駄経寺町地区（中曾根遺跡）

調査地点 倉吉市駄経寺町字西ノ谷・下青瀬・中曾根

調査期間 平成15年1月16日～平成15年2月7日

調査契機 住吉谷川通常砂防事業に伴う試掘・確認調査

調査方法 トレンチ・グリッドによる発掘調査

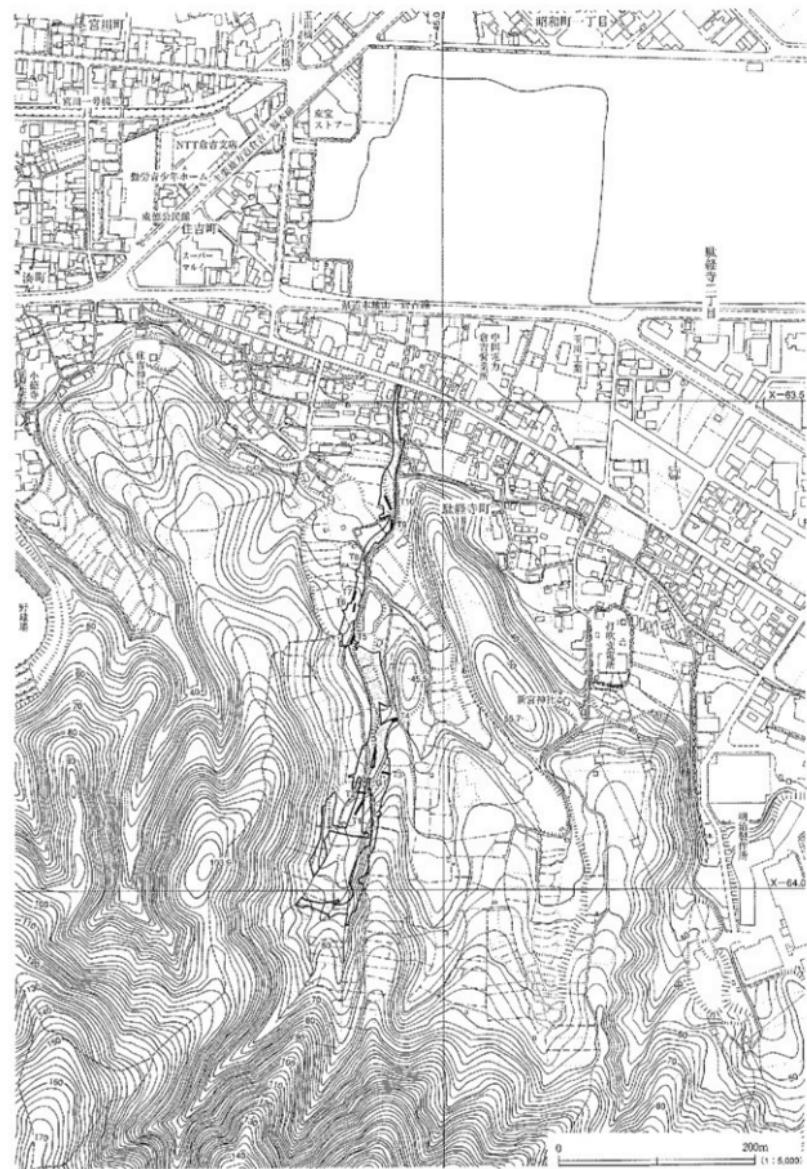
調査面積 214.2mf

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は、開発予定地内に10本のトレンチ、1箇所のグリッドを設定して実施した。トレンチ3の西側斜面で等高線に並行する幅1mの溝1条を確認した。トレンチ7の北端で隅丸長方形の土壙1基を確認した。この2箇所以外はいずれも地山疊層が厚く堆積し、土砂崩れの様相を呈するものであり、遺跡の存在は確認できなかった。

このため遺構を検出した2箇所については、事前の発掘調査が必要である。

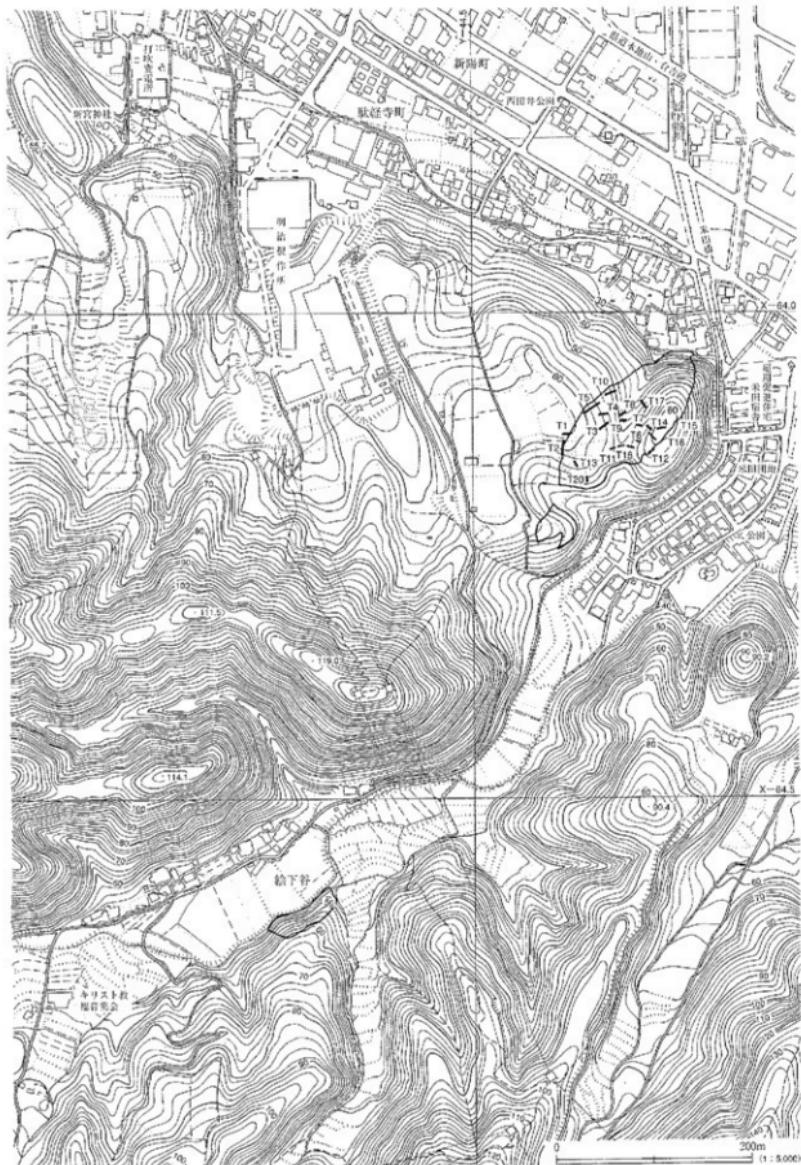
トレンチ番	規模(m)	面積(m ²)	検出遺物	出土遺物
1	2×20	40		織文土器、土師器、須恵器、石錐
2	2×10.3	20.6		土器、五輪塔（水輪）
3	2×8.7	17.4	溝1	土師器、土師質土器
4	2×5.4	10.8		
5	2×11	22		
6	2×8.9	17.8		
7	2×10.2	20.4	土壙1	土師器、須恵器
8	2×4.8	9.6		
9	2×10	20		
10	2×14.9	29.8		
G 1	1.1×1.8 1.0×0.4	2.92	溝1	



18 米田町地区（海又遺跡）

調査地点 倉吉市米田町字海又583-1、583-2、584、585-1、585-2、586-1、586-2、586-4、589-1、589-3
調査期間 平成15年1月23日～平成15年3月10日
調査契機 一般県道倉吉環状線に伴う試掘・確認調査
調査方法 トレンチによる発掘調査
調査面積 384.75m²
調査担当 岡平拓也
調査概要 調査は、なだらかな鞍部でつながる東西二つの丘陵の開発予定地内に20本のトレンチを設定して実施した。西側の丘陵頂部（トレンチ5）からは5世紀代の古墳周溝と思われる溝を2条確認した。周辺のトレンチからの出土遺物はあまり多くないが、丘陵上には古墳群が存在すると考えられる。東側の独立した丘陵上では、トレンチ12・15・16で古墳壇丘と考えられる土層を確認した。3本のトレンチとも壇丘部分に川原石が集中しており、古墳の葺石と考えられる。トレンチ周辺の地形から、丘陵頂部のほとんどの部分を占める全長約55mの前方後円墳と判断される。このため計画される一般県道倉吉環状線の路線変更も含めた再検討が必要である。

トレンチ番	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×11	22		
2	2×16	32		土師器
3	2×12	24		土師器
4	2×11	22		
5	2×20	40	古墳周溝 2	土師器
6	2×5.5	11		
7	2×7	14		土師器
8	2×9	18		
9	2×8	16		
10	2×13	26		
11	1.4×7.5	10.5		土師器
12	1.4×6.5	9.1	壇丘	
13	1.5×8	12		
14	2×7	14		灰釘
15	1.2×10 0.6×1.5	12.9	壇丘	須恵器
16	1.5×11.5	17.25	壇丘	土師器
17	2×12	24		
18	2×18	36		
19	1.5×6	9		土師器、石掩
20	2×6.5	13		



報告書抄録

書名	倉吉市内道路分布調査報告書					
圖書名	一					
巻次	12					
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第120集					
著者名	森下哲哉・根岸智津子・細谷誠司・岡本智樹・岡平折也					
編集機関	倉吉市教育委員会					
所在地	〒682-8611 島根県倉吉市葵町722番地 TEL 0858-22-4419					
発行年月日	西暦2003年3月20日					
所取道路名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)
		市町村:道跡記号				
山入堂谷道路	倉吉市字山根字入堂谷	31203:	35° 26' 50"	133° 51' 33"	20010423~20010517	204
半端ヶ道路	倉吉市上神宇半端ヶ	31203: 4 DKH	35° 27' 12"	133° 47' 42"	20010611~20010612	32
クズマ道路	倉吉市上神宇クズマ	31203: 4 DKK	35° 27' 20"	133° 47' 25"	20010601~20010620	90
人跡笠置寺跡間道跡	倉吉市駄経寺町2丁目	31203: 6 UDO	35° 25' 50"	133° 50' 32"	20010607~20011010	58
イザ原遺跡	倉吉市大井茶屋字イザ原	31203:	35° 26' 47"	133° 48' 02"	20010609~20011105	253
下前田遺跡	倉吉市国分寺下前田・ 稚ヶ瀬	31203: 6 NKS	35° 25' 41"	133° 47' 39"	20010618~20010705 20011105~20011109	289
白市道路	倉吉市国府字白市	31203:	35° 26' 06"	133° 46' 47"	20020514~20020522	51.2
西見堂道路	倉吉市古川字西見堂	31203:	35° 27' 28"	133° 50' 03"	20020521~20020607	81.9
向野道路	倉吉市大谷字向野	31203: 6 TOM	35° 25' 58"	133° 47' 03"	20010424~20010518 20020913~20021101	190 124
瀬堀道路	倉吉市上張田字瀬堀	31203:	35° 26' 15"	133° 44' 48"	20021217~20021224	120
大平山遺跡群	倉吉市大井字山田平・宮ノ森 海田東町字坂根・長谷平・ 若宮谷	31203:	35° 27' 17"	133° 51' 15"	20020603~20020614 20021111~20030120	586
海又道路	倉吉市米田町字海又	31203:	35° 25' 25"	133° 50' 42"	20030123~20030310	384.75
中曾根道路	倉吉市駄経寺町字西ノ谷・ 下曾根・中曾根	31203:	35° 25' 27"	133° 50' 13"	20030116~20030207	214.2

所収遺跡名	種類	主な時代：主な遺構	主な遺物	特記事項
山根入堂谷遺跡	集落 墳墓	弥生～古墳：溝1・竪穴式住居1	弥生土器・土師器・須恵器	
平畠ヶ遺跡	古墳	古墳：周溝1	土師器・須恵器	
クズマ遺跡	祭祀	古墳：祭祀遺構4 中世：地下式構穴1	土師器・須恵器・土馬・手捏土器・土製支撑	
大御堂庵寺跡関連遺跡	寺院	奈良：掘立柱塗跡柱穴3	瓦・土師器・須恵器・窓檻・土道・瓦当范・鐵・鐵津	陶製瓦当范の出土。 平成12年度大御堂庵寺跡第4次調査塗跡SE01 調査区で出土した圓筒型の型を追加報告。
イザ黒遺跡	集落	弥生：竪穴式住居1	弥生土器・ミニチュア土器	
下前田遺跡	集落	古墳～中世：溝3	弥生土器・土師器・須恵器・軒瓦・瓦・磚・陶器器	
白山遺跡	集落		弥生土器・打製石斧	丘陵南斜面で遺物包含層を確認。
西見余遺跡	集落	弥生～古墳：土塹2・溝2	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	
内野遺跡	園衙 周達	縄文：落し穴1 奈良：道路状遺構5・渠状遺構1	弥生土器・土師器・須恵器・瓦・鉄津	道路状遺構は、1次調査で検出した構造遺構の延長線上にあたり、遺跡の立地する丘陵上を横断すると考えられる。
雨堤遺跡	集落	弥生～古墳：防護穴1・溝1	弥生土器	
大平山遺跡群	集落 古墳	縄文：土塹1・落し穴1 弥生：竪穴式住居1 古墳：溝1・道路状遺構1・ 古墳2	縄文土器・弥生土器・土師器・ 須恵器・打製石斧・磨製石斧・ 石臼丁・砥石・磨石・四石	丘陵上には弥生時代の集落及び古墳群を、 谷部分には縄文時代の落し穴や遺物包含層 を確認。
海又遺跡	古墳	古墳：前方後円墳1・円墳2	土師器・須恵器	倉吉市街地を望む丘陵上で全長55mの前方後円墳を確認。
中曾根遺跡	集落	奈良～平安：土塹1		

平成13年度調査

地区名	図版No	遺物名	出土位置	地区名	図版No	遺物名	出土位置
山根	2-1	弥生土器 瓶	T 5	大野	6	土師器 环	T 3
	2	弥生土器 ミニチュア土器	T 5		6	土師器 瓶	T 3
	3	弥生土器 高环	T 6		7	土師器 环	T 3
	4	土師器 瓶	T 5		8	土師器 瓶	T 3
	5	土加器 瓶	T 5		9	土加器 高台付瓶	T 3
	6	土師器 低脚环	T 5		10	輪の羽口I	T 2
	7	土師器 环	T 5		11	輪の羽口II	T 3
	8	須恵器 环身	T 3		12	十鍾(須恵質)	T 2
	9	須恵器 环身	T 4		13	鏡石	T 3
	10	須恵器 高台付环	T 4		14	粉着瓦	T 2
	11	須恵器 环	T 4		15	粉着瓦	T 2
	12	砾石	T 3		16	及当端	T 3
	13	砾石	T 4		17	難免の型	SE0101(12)
	14	砾石	T 5		9-1	土師器 瓶	T 1
	15	砾石	T 2		2	弥生土器 瓶	T 1
	16	砾石	T 2		3	土師器 瓶	T 1
	17	砾石	T 1		4	弥生土器 高环	T 1
	18	铁斧 男先	T 1		5	須恵器 瓶	T 1
	19	土師器 瓶	T 2		6	須恵器 瓶	T 1
	20	須恵器 瓶	T 3				
大谷	3-1	土師器 瓶	T 2	大谷茶屋A	9-1	土師器 瓶	T 1
	2	須恵器 瓶	T 3		2	弥生土器 瓶	T 1
	3	土師器 小丸底瓶	T 3		3	弥生土器 ミニチュア土器	T 1
	4	土師器 高环ミニチュア土器	T 2		4	弥生土器 瓶	T 1
	5	土師器 把手	T 1		5	弥生土器 瓶	T 1
	6	土師器 手提土器	T 1		6	弥生土器 瓶	T 1
	7	土師器 手提土器	T 2		7	弥生土器 瓶	T 1
	8	土製文脚	T 1		8	弥生土器 瓶	T 1
	9	上玉	T 1		9	土師器 瓶	T 1
	10	砾石	T 1		10	鍬器	T 1
上神タツマ	11	砾石	T 1	大谷茶屋B	10-1	土師質土器 瓶	T 5
	12	須恵器 高台付环	T 2		2	土師質土器 瓶	T 7
駿経寺町2丁目	6-1	須恵器 高台付环	T 2		3	土師質土器 瓶	T 4
	2	須恵器 瓶	T 2		4	土師器 环	T 5
	3	須恵器 高台付环	T 3		5	土師器 环	T 5
	4	須恵器 瓶	T 3		6	土師器 瓶	T 5
因幡	13-1	弥生土器 瓶	T 2	因幡	6	绳文土器 深鉢	T 1
	2	弥生土器 瓶	T 2		7	绳文土器 深鉢	T 1
	3	弥生土器 瓶	T 2		8	绳文土器 深鉢	T 1
	4	弥生土器 瓶	T 2		9	绳文土器 深鉢	T 9
	5	弥生土器 瓶	T 2		10	绳文土器 深鉢	T 9
	6	須恵器 瓶	T 2		11	绳文土器 深鉢	T 1
	14-1	土師器 瓶	T 1		12	绳文土器 深鉢	T 1
	2	弥生土器 瓶	T 2		13	绳文土器 深鉢	T 1
	3	弥生土器 瓶	T 3		14	绳文土器 深鉢	T 9
	4	弥生土器 瓶	T 1		22-15	弥生土器 瓶	T 6
下古川	5	弥生土器 瓶	T 3		16	弥生土器 瓶	T 6
	6	陶器 瓶	T 3		17	弥生土器 瓶	T 6
	7	土器	T 4		18	弥生土器 瓶	T 6
	8	弥生土器 瓶	T 6		19	弥生土器 瓶	T 6
	9	弥生土器 瓶	T 6		20	弥生土器 瓶	T 6
	10	土器	T 4		21	磨石	T 1
	11	土器	T 1		22	石斧	T 1
	12	土器	T 1		23	石斧	T 9
大谷	16-1	土師器 瓶	T 2		24	砾石	T 9
	2	須恵器 高台付环	T 2		25	砾石	T 6
	3	須恵器 高台付环	T 2		26	石包丁	T 6
	17-1	陶器器 煙突	T 1		27	砾石	T 1
	2	陶器器 煙突	T 1		28	砾石	T 9
	3	陶器器 煙突	T 1		29	石包丁	T 6
	4	陶器器 煙突	T 1		30	砾石	T 6
	5	陶器器 煙突	T 1	駿経寺町	23-1	弥生土器 瓶	T 1
北野	6	瓦器 瓦	T 1		2	土師器 瓶	T 1
	7	土師器 瓦	T 1		3	土師器 鍋	T 3
	8	土師器 瓦	T 1		4	土師質土器 环	T 3
	9	土師器 瓦	T 1		5	土師器 环	T 5
	10	土師器 瓦	T 1		6	土師器 柱状高台	T 5
	11	土師器 瓦	T 1		7	須恵器 瓶	T 1
	12	土師器 瓦	T 1		8	須恵器 环身	T 1
	13	土師器 瓦	T 1		9	籠	T 5
上袖田	18-1	弥生土器 瓶	T 4		10	石頭	T 1
	2	弥生土器 瓶	T 4	上井	21-1	绳文土器 深鉢	T 9
	3	弥生土器 底部	T 1		2	绳文土器 深鉢	T 9
	4	須恵器 高台付环	T 1		3	绳文土器 深鉢	T 9
	5	須恵器 瓶	T 1		4	绳文土器 深鉢	T 9
上井	21-1	绳文土器 深鉢	T 9		5	绳文土器 深鉢	T 9
	2	绳文土器 深鉢	T 9		6	土師器 瓶	T 9
	3	绳文土器 深鉢	T 9		7	須恵器 瓶	T 9
	4	绳文土器 深鉢	T 9		8	須恵器 瓶	T 9
	5	绳文土器 深鉢	T 9		9	籠	T 9



1 山根地区

左 トレンチ 1 (西南から)

右 トレンチ 3 拡張 東側

溝 (北から)

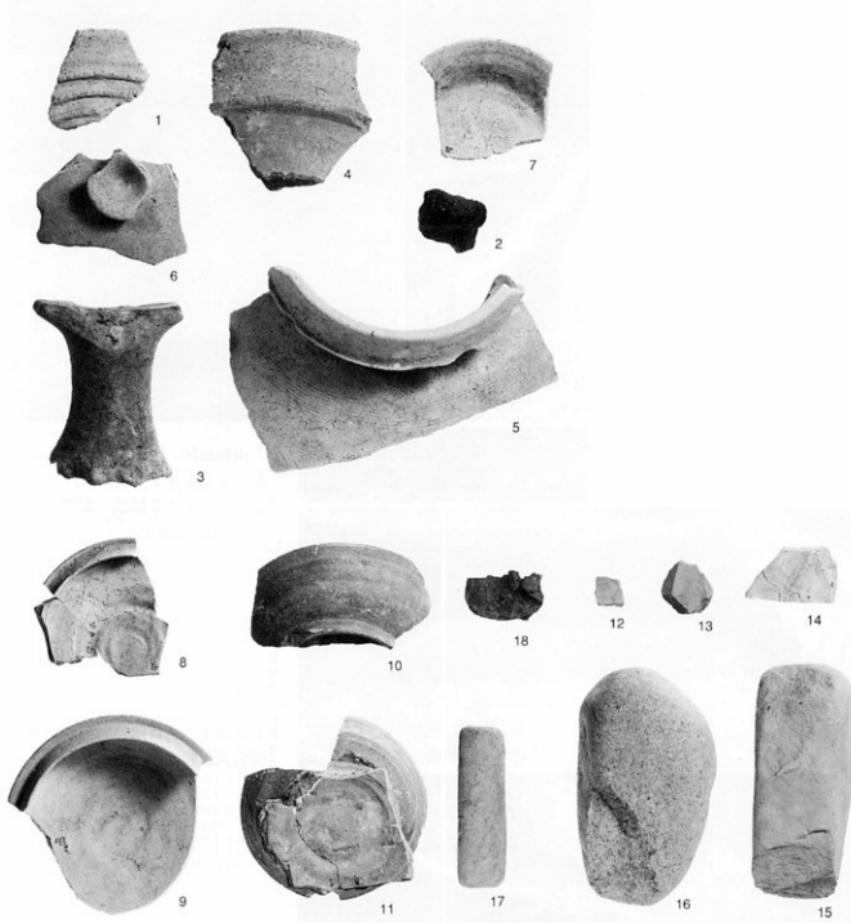


トレンチ 1 南西隅サブトレンチ
堅穴式住居 (南東から)



トレンチ 4 西側

溝 (南から)



山根地区 出土遺物 1 : 3



2 大谷地区

- 左上 トレンチ 1 (南から)
左下 トレンチ 2 (東から)
右上 トレンチ 3 (西から)
右下 トレンチ 8 (北から)



大谷地区 出土遺物 1 : 3

3 上神平畑ヶ地区

- トレンチ 1 (西から)





4 上神クズマ地区

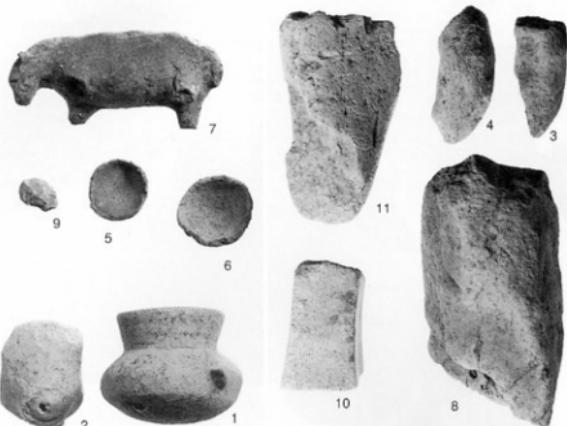
上 トレンチ 1 (北から)

下 トレンチ 2 (南から)

上 トレンチ 1 地下式横穴 (東より)

中 トレンチ 3 (北から)

下 トレンチ 3 (南から)



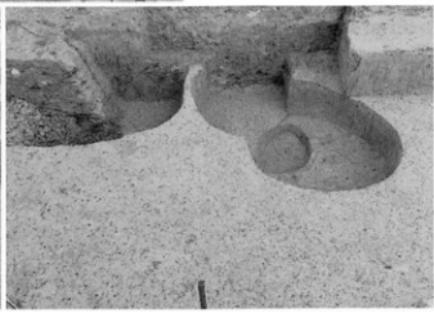
上神クズマ地区
出土遺物 1 : 3



5 脇経寺町 2 丁目
トレンチ 3 (南から)



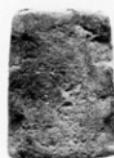
トレンチ 3 柱穴 (西から)



トレンチ 3 柱穴完掘状況 (西から)



駁経寺町2丁目地区 出土遺物 1:3



17 (1:2)

塑像螺髮 内側

外側



6 大谷茶屋地区A地区
(イザ原遺跡)
トレンチ1 (北から)



トレンチ2 (東から)



トレンチ4 (南から)



6 大谷茶屋地区B地区
(イザ原遺跡)
トレンチ 3 (西から)



トレンチ 2 拡張 (西から)



トレンチ 2
1号竪穴式住居 (西から)



大谷茶屋地区
A地区出土遺物 1 : 3



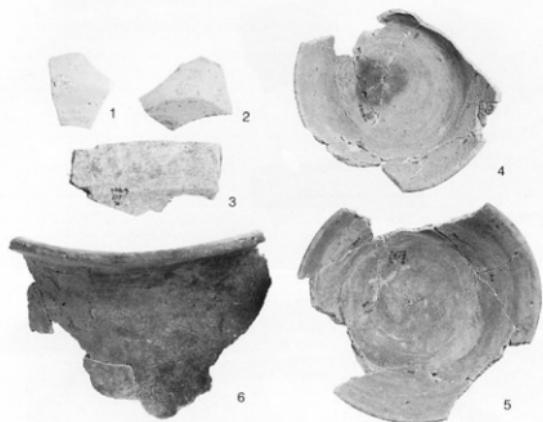
B地区出土遺物 1 : 3



7 国分寺地区（下前田遺跡）

トレンチ5 拡張（西から）

トレンチ4（西から）



出土遺物 1 : 3



8 三明寺古墳修復
横穴式石室石材崩落状況
(南から)



美道石材破損状況 (西から)



修復後全景 (南から)



△石材接合・保存処理作業

◇枯木・枯根除去、石材検出状況



◇ステンレス棒設置

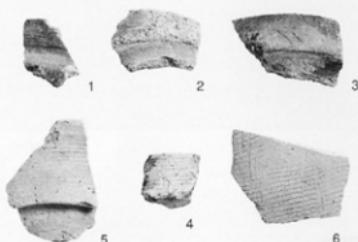


石材補光状況

発泡スチロール設置



9 国府地区（白市遺跡）
トレンチ 2（北から）



出土遺物 1 : 3



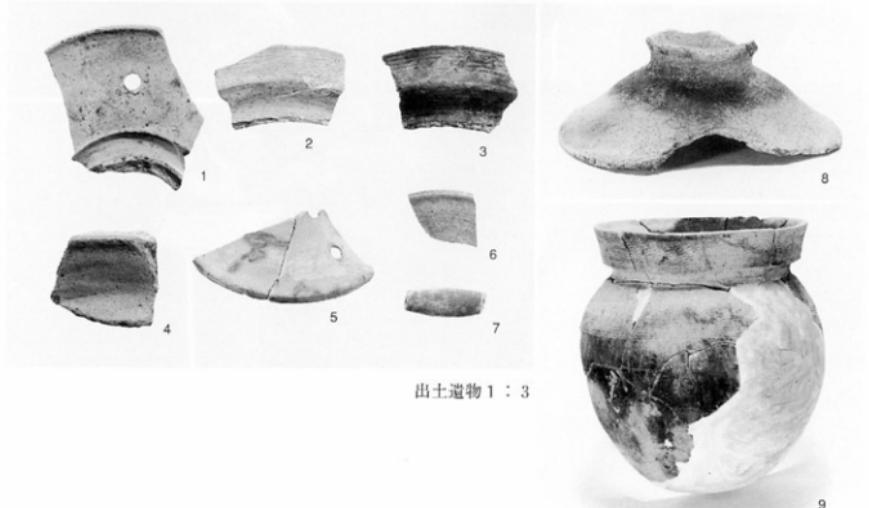
9 大谷地区
トレンチ 1（南から）



10 下古川地区
(西見堂遺跡)

トレンチ3 (東から)
拡張部 土壙 (東から)

トレンチ5 (東から)
グリッド1 (北から)





11 新田地区
トレンチ 1 (東から)



12 大谷地区
(向野遺跡)
トレンチ 1 (西から)



トレンチ 3 (東から)



12 大谷地区
(向野遺跡)
トレンチ 2 道路遺構
(西から)



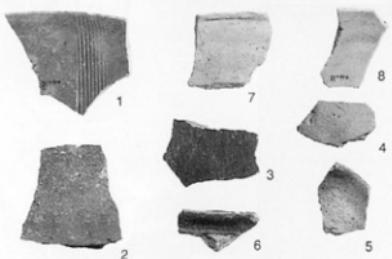
トレンチ 2 道路遺構
(南東から)



出土遺物 1 : 3



13 北野地区
トレンチ 1 (東から)



出土遺物 1 : 3



14 谷地区 トレンチ 1 (南西から)



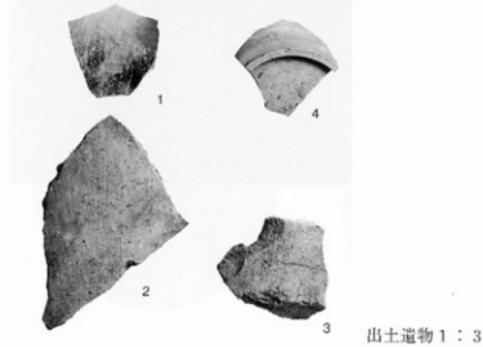
トレンチ 2 (西から)



15 上福田地区（雨堤遺跡）
トレンチ 4 (南西から)



トレンチ 4 貯蔵穴 (北西から)



3 出土遺物 1 : 3



16 上井地区（大平山遺跡群）

左 トレンチ 1（西から）

右 トレンチ 3（東から）

トレンチ 9（北から）

図版20



トレンチ 4 (東から)



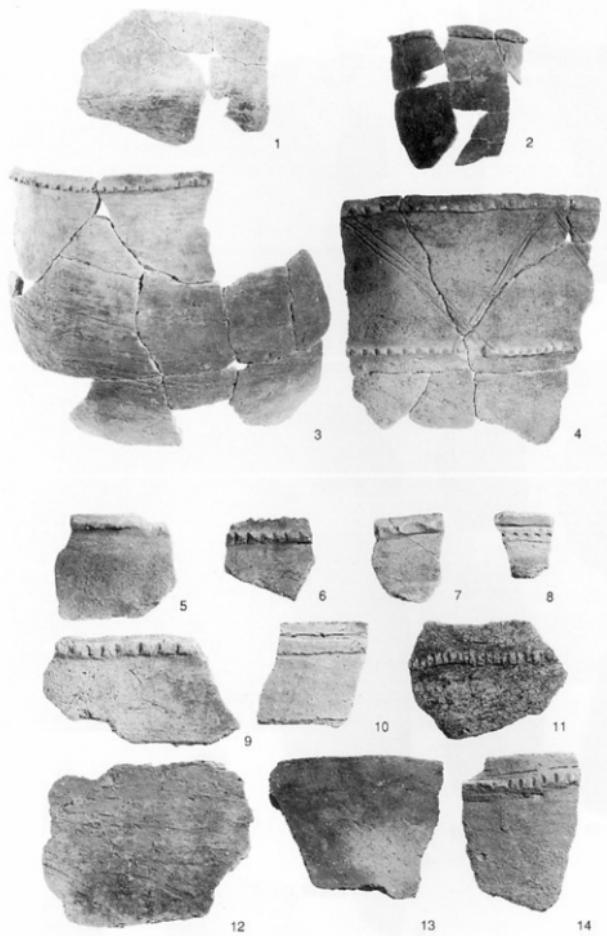
トレンチ 8 (東から)



トレンチ21 落し穴 (南東から)

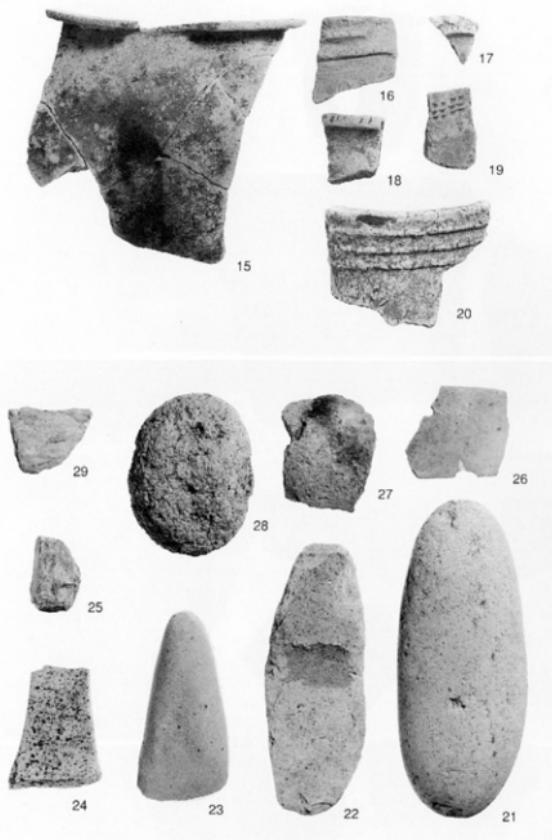


トレンチ26 堅穴式住居 (東から)

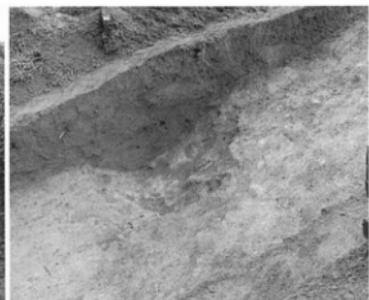


出土遺物 1 : 3

図版22



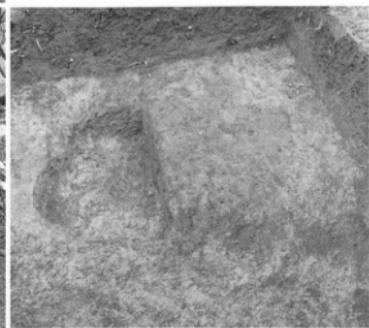
出土遺物 1 : 3



17 猪経寺町地区（中曾根遺跡）

△トレンチ 3 (西から)

△溝 (南から)



△トレンチ 5 (南から)

△土壤 (東から)



出土遺物 1 : 3



18 米田町地区 トレンチ 5 溝 (北東から)



トレンチ11 落込み (北から)



トレンチ12 前方後円墳 前方部 (南西から)



後円部 (西から)

倉吉市内遺跡分布調査報告書12

平成15年3月20日 印刷

平成15年3月20日 発行

編集 白井市教育委員会

印刷 勝美印刷株式会社
製本
